

I 農業・農村の概要

日高地方は、御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町の1市6町からなり、紀伊水道に面した海岸段丘の普通畑、日高川等大小河川沿いの水田、海岸部から中山間地の傾斜地には樹園地が広がっています。

果樹では、日高川町と由良町を中心に温州みかんや晩柑類が作付けされ、みなべ町、印南町、日高川町を中心にうめの産地が形成されています。

野菜、花きでは、ミニトマトやうすいえんどう、スターチスや宿根カスミソウなどの施設栽培が御坊市、印南町、みなべ町の海岸部を中心に行われ、また、露地野菜では水田裏作のブロッコリー、作型を組み合わせたえんどう類の長期出荷産地が形成されています。

水稲は、主要河川流域の平野部を中心に、日高全域で作付けされています。

1. 農業生産の現状

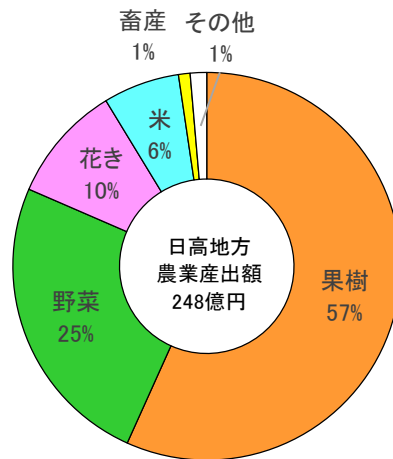
令和元年の農業産出額は約248億円で県全体の約22%を占めており、平成27年に比べ28%増加しています。

部門別では、果実が141億円、野菜が62億円、花きが24億円となっており、うめ、えんどう類、スターチスは、全国に誇る産地が形成されています。

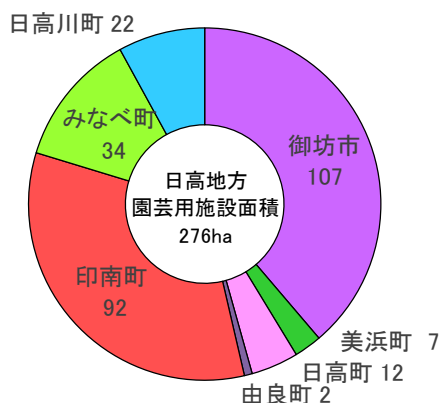
なかでもうめは、健康指向や熱中症対策として注目され、需要の拡大により産出額が増加しています。一方、開花期の気象条件等の影響により、生産量の変動が大きくなっています。

施設園芸では、ビニールハウス等の園芸用施設の設置面積は276haと県全体の約51%を占め、耐風性や耐暑性を高めた栽培施設の導入が進んでいます。

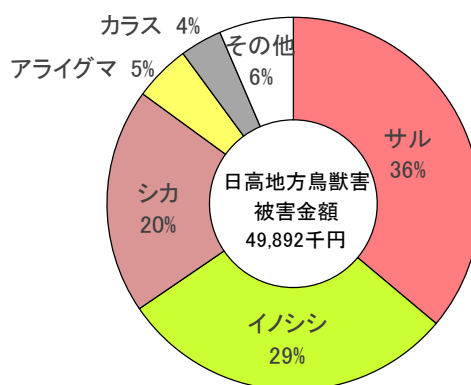
一方、野生鳥獣による農作物被害の影響は大きく、特にサル対策が課題となっています。また、農業労働力不足が表面化しており、対策が急務となっています。



部門別農業産出額割合(R元生産農業所得統計)



園芸用施設の市町別設置面積 (H30園芸用施設の設置等の状況)



日高地方における種類別被害金額 (R元野生鳥獣による農作物の被害状況調査)

2. 農業の担い手

販売農家数は3,470戸で、2015年に比べ販売農家数は12%減少しています。

農業経営体における基幹的農業従事者は、5,722人で、男性3,187人、女性2,535人と女性が約半数を占め、農業・農村の重要な担い手となっています。一方、65歳以上の農業就業者の割合は58%と増加しており、今後担い手の減少が懸念されています。

認定農業者は、780経営体（R2.3月末）で、経営改善に向けた取組が行われています。

新規就農者数は年間約22名（直近5カ年平均）、4Hクラブ員数は28名で県全体の約23%を占めています。



新規就農者や青年農業者等を対象としたセミナー「農トレ！日高」

新規就農者の推移（県調べ）

就農形態	平成			令和		合計
	28年	29年	30年	元年	2年	
新規学卒者	6	0	3	3	2	14
Uターン就農者	10	15	6	11	13	55
新規参入者	8	2	5	2	6	23
農業生産法人等への就農者	3	3	5	4	3	18
合計	27	20	19	20	24	110

3. 農地の状況

農業者の高齢化により、農地の維持が難しくなっています。そこで条件に恵まれた農地を中心に、農地中間管理機構の活用による担い手への農地の利用集積が進んだ結果、経営耕地面積3ha以上の大規模経営体が増加しています。また圃場整備により地域の農地を維持する取組も始まっています。

一方、耕作を放棄した農地が増加しており、県全体の荒廃農地は2,360ha（H27）から3,286ha（R元）と5年間で1,000ha以上増加しています。日高地方においても増加している状況であり、地域農業を守るための取組が求められています。